

vRealize Automation Service Broker スタート ガ イド

2019 年 12 月 19 日

vRealize Automation 8.0

最新の技術ドキュメントは、VMware の Web サイト (<https://docs.vmware.com/jp/>)

VMware, Inc.
3401 Hillview Ave.
Palo Alto, CA 94304
www.vmware.com

ヴィエムウェア株式会社
105-0013 東京都港区浜松町 1-30-5
浜松町スクエア 13F
www.vmware.com/jp

Copyright © 2021 VMware, Inc. All rights reserved. [著作権および商標情報](#)。

目次

- 1** vRealize Automation Service Broker とは 4
 - vRealize Automation Service Broker の機能 5
- 2** vRealize Automation Service Broker を開始する前に 6
- 3** vRealize Automation Service Broker を設定する方法 8
- 4** vRealize Automation Service Broker で実行できる他の操作 13

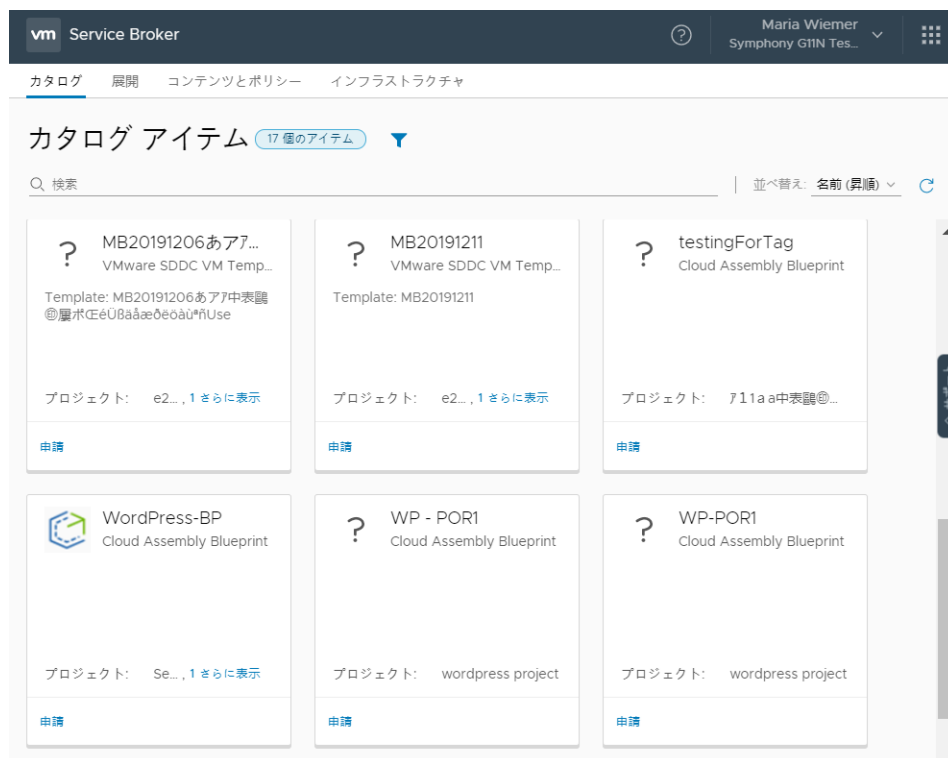
vRealize Automation Service Broker とは

1

vRealize Automation Service Broker は、カタログ アイテムを要求および管理できる単一のポイントを提供します。

クラウド管理者として、ユーザーがクラウド ベンダーのリージョンまたはデータストアに展開できる、リリースされた vRealize Automation Cloud Assembly ブループリントおよび Amazon Web Services CloudFormation のテンプレートをインポートして、カタログ アイテムを作成します。

ユーザーとして、プロビジョニング プロセスを要求および監視できます。展開後、展開されたカタログ アイテムを展開ライフサイクル全体で管理します。

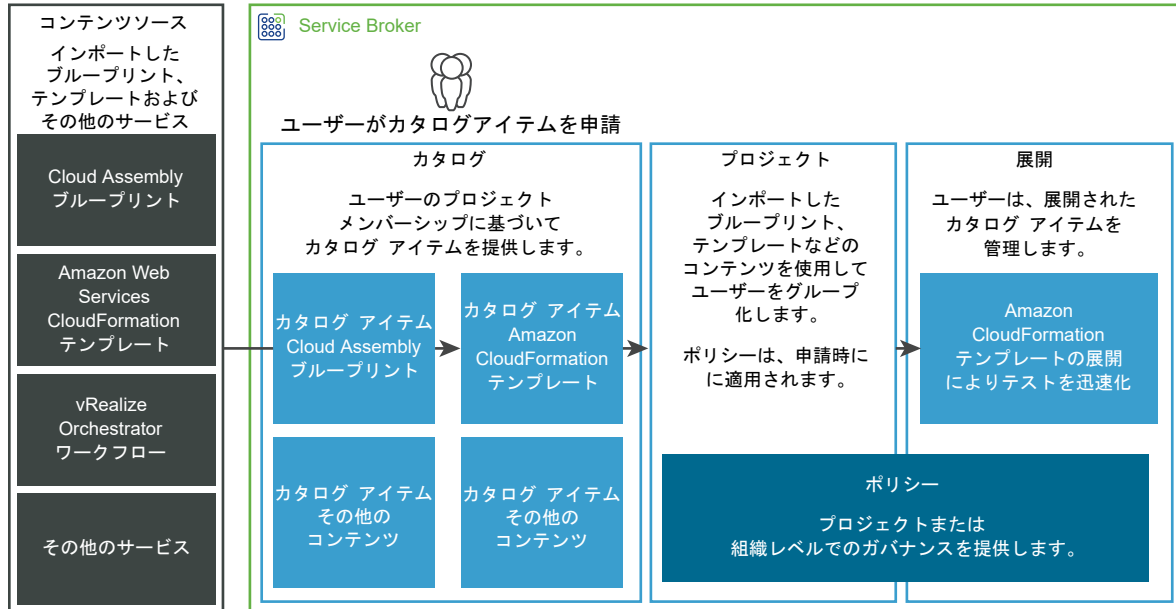


この章には、次のトピックが含まれています。

- vRealize Automation Service Broker の機能

vRealize Automation Service Broker の機能

vRealize Automation Service Broker は、ユーザーに提供する簡素化された効率的なカタログを提供します。カタログを使用して、使用可能なカタログ アイテム、およびそれらが展開される方法と場所を管理します。



一般にクラウド管理者と呼ばれる Service Broker 管理者の場合、vRealize Automation Service Broker は展開操作やその他のチームに提供する合理化されたユーザー インターフェイスです。必要なマシンとアプリケーションのブループリントとテンプレートをインポートし、プロジェクトのフォームにガバナンスを追加して、リソースを展開できるユーザーを制御し、リソースの展開場所を制御します。

vRealize Automation Service Broker を開始する前に

2

vRealize Automation Service Broker の操作を開始する前に、パブリック クラウドおよびプライベート クラウドに接続するために特定の情報を利用できるようにする必要があります。

このチェックリストを使用すると、サービスへのオンボードを開始する前に設定できます。

表 2-1.

目的	必要なもの
vRealize Automation Service Broker に登録してログインする	VMware ID。 会社のメール アドレスを使用して、 My VMware アカウントを設定します。
VMware Cloud Services への接続	ファイアウォールを介して以下にアクセスする送信トラフィックに対して開いている HTTPS ポート 443。 <ul style="list-style-type: none">■ *.vmwareidentity.com■ gaz.csp-vidm-prod.com■ *.vmware.com
vRealize Automation Cloud Assembly ブループリント コンテンツ ソースの追加	関連付けられたインスタンスから vRealize Automation Cloud Assembly ブループリントをインポートできます。 <ul style="list-style-type: none">■ プロジェクト - vRealize Automation Cloud Assembly 内のどのプロジェクトのメンバーであるかを把握します。プロジェクトは、インポートされたブループリントを表示できるメンバーを決定します。

表 2-1. (続き)

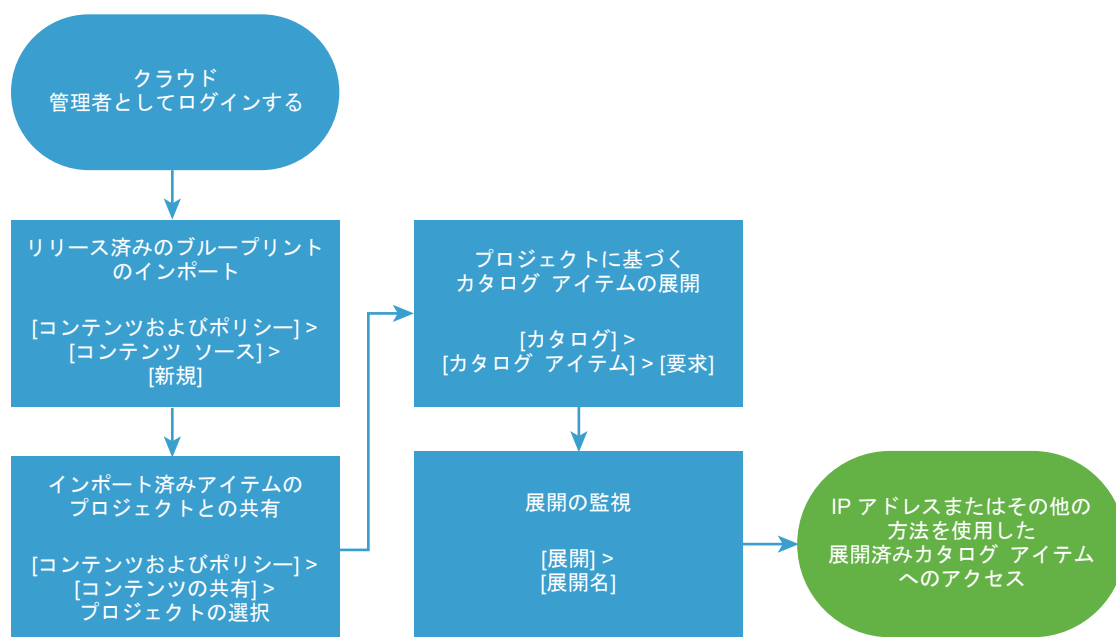
目的	必要なもの
Amazon CloudFormation テンプレート ソースの追加	<p>Amazon S3 バケットに保存されている Amazon CloudFormation テンプレートをインポートできます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ プロジェクト - vRealize Automation Cloud Assembly 内のどのプロジェクトのメンバーであるかを把握します。プロジェクトは、インポートされたテンプレートを表示できるメンバーを決定します。 ■ バケット名 - Amazon CloudFormation テンプレートが保存されている Amazon S3 バケットの名前を知っている必要があります。 ■ バケット アクセス キーとプライベート キー - テンプレートをプライベート バケットから追加する場合は、キーを知っている必要があります。 ■ 展開のターゲット アカウントとリージョン - テンプレートが展開される vRealize Automation Cloud Assembly で設定されたクラウド アカウントとリージョンを把握しておく必要があります。
テンプレート展開時のターゲット リージョンとしての Amazon Web Services クラウド アカウントの追加	<p>読み取りおよび書き込み権限を持つパワー ユーザー アカウントを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 20 桁のアクセス キーの ID と対応する プライベート アクセス キー。

vRealize Automation Service Broker を設定する方法

3

vRealize Automation Service Broker インスタンスを設定して検証するには、外部ソースから既知の作業コンテンツをインポートしてカタログで使えるようにし、カタログ アイテムを展開して機能していることを確認します。

クラウド管理者として vRealize Automation Service Broker を使用するのこれが初めてのため、まずセットアップを行います。コンテンツをインポートして展開し、クラウド ベンダーに接続できるようにしてから、カタログに漏れなくポピュレートし、サービスに参加するように他のユーザーを招待します。



この使用事例では、リリース済みの vRealize Automation Cloud Assembly ブループリントをインポートします。Amazon CloudFormation テンプレートをインポートすることもできますが、ここではそのプロセスを説明しません。『vRealize Automation Service Broker の使用と管理』の [Service Broker カatalog への CloudFormation テンプレートの追加](#)を参照してください。

前提条件

- クラウド管理者としてログインします。
- ブループリントをインポートする前に、そのブループリントが vRealize Automation Cloud Assembly に展開されてリリースされていることを確認します。『vRealize Automation Cloud Assembly の使用と管理』のブループリントの別バージョンを保存する方法を参照してください。

手順

1 ブループリントをインポートします。

vm Service Broker

カタログ 展開 コンテンツとポリシー インフラストラクチャ

「新しいコンテンツ ソース」

コンテンツ ソース

コンテンツの共有

コンテンツ

ポリシー

定義

適用

タイプ Cloud Assembly Blueprint ⓘ

名前 Cloud Assembly instance

説明 Blueprints for multitier developers

ブループリントの取得元:

ソース プロジェクト Q WordPress Project ⓘ

検証

✓ コンテンツソースが正常に検証されました。0 アイテムが見つかりました。

ブループリントの展開先

ブループリントは、共有されているプロジェクトのクラウド ゾーンに展開されます。

作成とインポート キャンセル

- a [コンテンツとポリシー] - [コンテンツ ソース] の順に選択し、[新規] をクリックします。
- b [タイプ] ドロップダウン メニューで、[Cloud Assembly ブループリント] を選択します。
- c ブループリントに関連付けられているプロジェクトを選択し、[検証] をクリックします。

接続が検証され、インポートされるブループリントの数が示されます。

- d [作成してインポート] をクリックします。

2 インポートしたブループリントをプロジェクトと共有します。

ブループリントは、vRealize Automation Cloud Assembly で作成されたときにプロジェクトに関連付けられます。プロジェクトには、ユーザー グループや、ブループリントが展開されるアカウント リージョンなどが含まれています。vRealize Automation Service Broker では、ブループリントを他のユーザーと共有できませんが、展開をサポートするには、ターゲット プロジェクトにアカウント リージョンをクラウド リソースとともに含める必要があります。

- a [コンテンツとポリシー] - [コンテンツの共有] の順に選択します。
- b [プロジェクト] ドロップダウン メニューで、ターゲットのプロジェクトを選択します。
- c 特定のブループリントのみを選択するには、[コンテンツソース] ドロップダウン メニューから [すべてのコンテンツ] を選択します。
- d このプロジェクトと共有するブループリントを選択し、[保存] をクリックします。

プロジェクトのリストにブループリントが追加され、インポートしたブループリントがカタログで使えるようになります。

3 インポートしたブループリントを展開します。

The screenshot shows the vRealize Automation Service Broker interface. The top navigation bar includes 'カタログ' (Catalog), '展開' (Deploy), 'コンテンツとポリシー' (Content and Policy), and 'インフラストラクチャ' (Infrastructure). The main area displays a list of catalog items, including 'MB20191206あア...', 'MB20191211', and 'testingForTag'. A modal window titled '新規申請' (New Request) is open, showing the deployment form for 'WordPress-BP'.

新規申請 (New Request) Form:

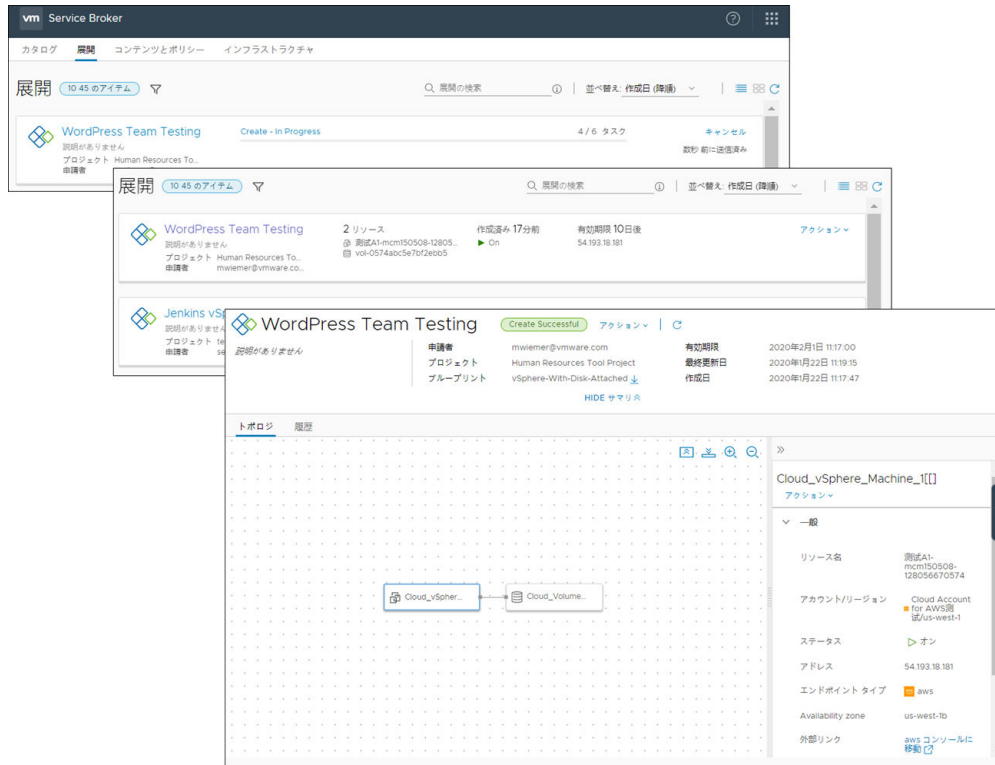
- Project:** WordPress-BP (バージョン: 1)
- Deployment Name:** WordPress Team Testing
- Description:** Deployed for Testing
- Project:** WordPress Project
- Environment:** env:test
- Database Tier Size:** small
- WordPress Cluster Size:** 2
- Database Username:** admin
- Database Password:** password
- Wordpress Archive Disk Size:** 4
- MySQL Data Disk Size:** 4

Buttons at the bottom: 送信 (Submit), キャンセル (Cancel).

- [カタログ] をクリックします。
- 展開するブループリントのカードを見つけて、カードの [申請] をクリックします。
- 申請フォームに入力し、[送信] をクリックします。

展開プロセスが開始されます。

4 展開を監視します。



- 「展開」をクリックし、検索とフィルタのオプションを使用して、展開したカタログ アイテムを見つけます。
- 展開が完了したら、カードの IP アドレスを見つけます。名前をクリックすると、詳細が表示されます。

5 展開されたワークロードにアクセスし、動作していることを確認します。

展開は、アプリケーションであることもあれば、単一のマシンであることもあります。

vRealize Automation Service Broker で実行できる他の操作

4

Dev-ops チームをサポートするクラウド管理者として、vRealize Automation Service Broker を使用して、開発者が開発、テスト、および本番の環境の作成に使用するリソースのカタログを提供します。

次の推奨事項に加えて、ロールをユーザーに割り当てることもできます。[vRealize Automation の管理](#)を参照してください。

詳細	『Using and VMware Service Broker の使用と管理』を参照してください。
CloudFormation テンプレートなどのカタログ アイテムのインポート。	組織の Service Broker のセットアップ
カタログ アイテムの要求。	カタログを操作する方法
失敗した導入のトラブルシューティング。	Service Broker の展開に失敗した場合の対処